

様式第 3 号

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和 7 年度 第 3 回 牧の台地域協働交通検討部会連絡会		
事務局（担当課）		土木部交通政策課		
開 催 日 時		令和 7 年 9 月 1 7 日（水）14：00～15：40		
開 催 場 所		市役所地下 1 階 B O 3 会議室		
出席者	部 会 員	日野泰雄、田中祥敬（代理出席）、中澤栄二（代理出席）、武田容美		
	地 域 代 表	植木 信嘉、嶋川 幸三		
	事 務 局	【土木部交通政策課】 大村課長、金森課長補佐		
傍聴の可否		否	傍 聴 者 数	—
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		川西市地域公共交通会議規則第 5 条第 6 項の規定により非公開		
会 議 次 第		1. 開会 2. テーマ (1) ワークショップ開催の報告 (2) 牧の台コミュニティ協議会の実施計画書について (3) その他 3. 閉会		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		

概要

1. 開会

2. テーマ

(1) ワークショップ開催の報告

〈主旨〉令和7年9月5日（金）に開催したワークショップで出た意見の共有を図る。

〈主な意見〉

①大勢の方に参加いただき意見をいただいたが、時間も短く議論し尽くせなかった部分もあった。オフィシャルのワークショップだけでなく、随時、地域でも話し合いを行ってほしい。

②色々意見をいただいたが、全てを実現することは不可能であると考えている。

③バスに乗らない理由と解決策が対応していない。この解決策で需要を増やすことは難しい。通勤通学の定期利用をコンスタントに確保することが大事。その上でどれだけ上乗せできるかということ。

もう一つは、行政として車の利用を制限できないか。例えば能勢口などの中心部への車での往來を規制すれば、公共交通利用を促すことができる。

地域では、何とかバスを維持するために自家用車の利用を控えてバス利用を促すこと。資料の中で、子どもに対する取組みや商業者との連携についても意見が出ているが、具体的な効果も含めて検討いただきたい。

(2) 牧の台コミュニティ協議会の実施計画書について

〈主旨〉

移動課題解決のための実施計画書の作成スケジュール等について共有を図る。

〈主な意見〉

・実施計画書の作成について

①具体的な取組みが固まれば地域公共交通会議に上げて協議することになる。令和8年度から取り組める事業をこれから年末年始までにまとめ、最終的にはコミュニティで承認いただく形になる。

②サポートは市も行うが、あくまで地域が主導で取組むということは念頭に置いていただきたい。

③以前の地域協働は取組むことに意義があった。今はそうではなく実質的な実利を生まなければならない。効果が期待できるかが重要。

・具体案について

①自治会館の前に休止しているバス停があるので八の字ルートにできればと考えている。現在、東4丁目バス停が最寄りになるが、高齢者からすると遠い。

⇒現在、30分間隔で運行しているが、八の字ルートにすると30分間隔で運行できなくなる。あと、ルートが複雑になり利用者が混乱する。

②学校や幼稚園などでバス利用者が減って地域のバスが減便され、自分の祖父母などが移動に困っているという現状を知ってもらった上で、バス利用者増の取組みについて意見を募集できないか。

③高校生の自転車通学を公共交通に転換できないか。バスでも通学可能であれば行政としてバス利用のための補助ができないか。

④学校MMを実施し、無料乗車券を児童に配布し地域のイベントに来てもらってはどうか。

⇒秋の文化祭に間に合うか分からないが学校MMの実施に向けて、学校及び阪急バスと日程調整する。

⇒単発で学校MMをするのは意味が無い。毎年やり続けることに意義がある。そこに即時的な効果は求めることができない。

⇒どの程度の人が利用したかフォローアップが必要。あと、学校MMは市域全体で実施するので、他の地域で配布した利用率と比べて効果を検証する必要がある。

⑤第3自治会館と第十公園が北部地域にあるが、利用頻度が低い。バス停も近くにあり利便性も高いので、ここで定期的なイベントが開催できないか。第十公園でビアガーデンをしたこともある。

⇒イベントを定期開催できれば、売り上げにも繋がる。イベントが定着すれば市の補助がなくても地域だけで継続できる。バス利用者には無料乗車券の配布やスタンプをためてビール1杯無料などの特典があればいいのでは。

⑥コープなど商業者との連携は可能か。

⇒コープにはバス発車の店内放送を協力いただいている。商店会に加入されているので、商店会長を通して協力はお願いが出来ると思う。

⑦朝の通勤時間帯で東畦野交差点からの渋滞がバス運行の定時性に影響している。

⇒阪急バスから遅延情報も提供いただき確認した上ではあるが、定時性を確保することで利用が増えるかも知れない。それと、地元の移動ニーズと合わせた解決策が出せればいいのでは。

⑧「年1回はバスに乗りましょう」みたいなキャッチフレーズを作ってはどうか。

⑨ワークショップの形式でなくてもいいので、若い世代の意見を聞いてほしい。

⇒簡単なアンケート用紙を作成して意見を募集してはどうか。

(3) その他

①10月8日（水）に地域公共交通会議を開催する予定。そこで、牧の台地域の取組みを報告する。

②阪急バスに令和6年10月～令和7年9月までの収支を出していただきたい。

③地域が全てを取組むということではないが、本日議論したの意見を地域に持ち帰っていただいて検討いただきたい。

3. 閉会